

# Starbright COCDA:スターブライト・発達支援センター訪問

## (非営利特別支援施設)

施設責任者：Ms.Rhonda Nelson

(ロンダ・ネルソン) さん

資料提供:VIEC ケローナ

レポート:中能孝則

### A) はじめに

今年で 50 周年目を迎える Starbright (スターブライト) は発達支援が必要な 0 歳～5 歳児の為に必要なサポートやサービスを提供しています。スターブライトができたおかげで、それまではバンクーバーまで通っていた親御さんが地元でサービスを受けることができるようになりました。

職員の雇用やサービスの費用は Ministry of Children and Family Development(MC F D)との契約により賄われており、その契約は 1 年ベースで見直しがされています。

それ以外にも地域の支援団体や個人の支援者からの温かい寄付によってその活動が支えられています。

センターでは情報の提供、実際の療育を通じて、できるだけ多くの支援を必要とする家族のニーズに長期計画で応えていけるように努めています。

セントラルオカナガン地域では現在 1008 名の子どもたちがサービスを受けています。そのうち 629 名は複数のプログラムを利用しています。45.5%が 0～4 歳児です。それでもまだ 414 名がウェイティングリストに載っているのが現状です。

### B) 運営について

#### 1. 政府と契約することで

- ① スタッフを雇用できるようになった。



- ② 職員の福利厚生ができるようになった。

- ③ 運営をする費用をもらえるようになった。

#### 2. 運営には

運営には 11 名の理事が在籍しているが、日々の運営にはかかわらず、アドバイスを受けながらロンダさん一人が常駐している。

通常のオープン時間は、午前 8 時から午後 4 時 30 分で、午後 4 時までに来れない方には、アポイント取って時間外に会うこともある。

3. 利用できる年齢は 0 歳～5 までが対象で、自閉症の子は 5 歳以上でも対応することがある。しかし、5 歳以上はここでは対応することができず、その後はこの施設から派遣されたスペシャリストが対応している。

4. 増え続ける障害児の現状

50年前からすると、毎年100人ずつくらい増えている感じがしている。個人的には①自閉症の子。②サポートが必要なフラットヘッド(絶壁頭)。③聴覚障がい児の順位だと思われる。

### C) 主軸となるセラピーおよびプログラムの紹介(訪問順)

#### 1. 乳幼児発達支援(お話しニッキさん)

発達に遅延が認められる、障害が認められる、または、その可能性がある乳幼児に対して訪問ベースで支援を行う。

新生児を抱えるお母さんの質問

- ① うちの子はほかの子と同じように発達していますかという質問が一番多い。(コンサルタントが会いに行く)
- ② 発達の段階を知りたい。
- ③ もしもの時はどこに行けばサポートが受けられるか。
- ④ ただ単に話がした。
- ⑤ 問題を抱えている子どものお母さんと知り合いたい。

※新生児の親は動けないのでこちらから訪ねていくこともある。

※障がい分かるタイミング。は検診時や予防接種の時、親が気が付くこともあるなど

#### 2. 自閉症のためのプログラム(カーリーナさん)

自閉症児のための行動介入療法自閉症と診断された子どもを対象に、言葉の有効な使い方やコミュニケーションスキルの習得を促す行動療法を行い、家族やコミュニティにおいて孤立せず積極的に関わっていく手助けをする。

- ① 毎日6~7人が通ってくる。

- ② 1対1の対応で療育している。
- ③ 一人一人に療育のプログラムがあり、日々のデータを基に、どのようなスキルを伸ばしていくか。その子にあったものであるか、スタッフで話し合いながら決めていく。
- ④ ここには行動療法士もいて、その子の行動をきちんと見ながら、プログラムを作っている。
- ⑤ 実践したデータを基づきプログラムを作り、判断して新しいプログラムを作っていく。
- ⑥ プログラムの作り方は、いろいろなところから入手し、常に新しいプログラムで対応している。
- ⑦ プログラムの目的
  - \*社会に出ていく力を育てる
  - \*コミュニケーション力を育てる。
  - \*学校に行く時に必要なものを身につける。
  - \*感情の育ちを育む
- ⑧ 自閉症以外にも支援が必要なるものもある、糖尿病、てんかん等をサポートする役割もある。

#### 3. 作業療法プログラム

様々な作業、道具の利用を通じた環境の設定を行う事で、自立作業を促したり、個々の機能を高めたりする療法。

#### 4. 子どもと家族のためのカウンセリングプログラム

小学校入学前の児童と家族を対象に、情報提供や周囲との協力体制の構築のためにカウンセリングを行う。問題行動に関するカウンセリングも行う

- ① ファミリーに話を聞いて、本人にとって家族にとって、何がゴールなの

かを聞いてそこに近づけるようにサポートする。

- ② プログラムは常にアップデートするように心がけている
- ③ 心理的なことで悩んでいる子にはどのようなケアが必要かをただしく知り、必要なところを紹介する役割もある。
- ④ ファミリーとたくさん話して、カウンセラーに正しく伝わるように努力している

#### 5. 言語療法プログラム（ダニーさん、キャサリンさん）

聴く力、話し言葉の理解。発話に必要な口の動かし方。正しい文法に沿った話し方。言葉以外のボディランゲージ、ジェスチャーやサインの理解。必要としていることや考えを伝えるためにピクチャーカードをもちいる方法の習得。遊びの中で順番を守ることや上手にコミュニケーションをとる為のスキルの習得。

（相談例）

- ① コミュニケーションがとれない。
- ② 言葉は出るけど話しているときに人の目が見れない。指をさした方向を見れない。（こういう子は自閉症の疑いもある）
- ③ 未熟児、ダウン症児を抱えている子も来ることがある。
- ④ 聴覚補助の必要な子への対応について家族と話すこともある
- ⑤ 発音に問題を抱えていて、言葉をしゃべれないという相談

（判断）

- ① 言語療法の分野だけではない子、それだけの子、それを見極めて家族と相談して次に進める。

- ② 時に自閉症の子がここに来た時には、自閉症担当のスタッフと相談して、そのゴールを見極め、それに近づいているかを確認しながら進めている。

#### 6. 物理療法または理学療法プログラム

体力、平衡感覚、感覚と運動の協応力を高める理学療法。筋肉や関節の動きも含め、理学療法士が総合的なセラピーを行う。

#### 7. 特別支援プログラム

身体、コミュニケーション、認知、社交性、感情抑制、行動において遅れや問題が認められる子どもに対し、できる限り通常の保育環境での保育が可能となるように支援計画をたてる。

- ① 小さなうちに必要なサポート（見る、聞く、さわる）その子のできるものを伸ばしていく。
- ② 日常の生活ではさほど問題を感じないので、「うちの子は大丈夫」と、親御さんには見えていない、気が付いていないときもある。⇒次のプログラムを推薦する。

#### D) 感想

様々プログラムが準備されていて、障がいに応じてプロフェッショナルが対応している。“子どもたちが自分らしく生活できるように”と、運営している施設を拝見して、子どもたちが実に幸せそうだと強く感じた。